

4. パークの「都市」

パーク（1864～1944）の「都市」に関する記述は、雑然としていてとらえどころがない。しかし、その後の都市社会学の理論が、萌芽的なアイデアとしてふくまれている。パークを中心に、シカゴ社会学の特質を検討する。

（1）パークの経歴



1887年 ミシガン大学卒（当時、デューイがいた）。

その後、約10年間、新聞記者として働く。

ハーバード大学に戻り、ウィリアム・ジェームズに学ぶ。

1898年～1903年 ドイツ留学。ハイデルベルクで哲学の博士号を取得。

ベルリンでは、ジンメルジンメルの講義に出席。

アメリカに戻ってからは、人種問題に取り組み、社会改良家、ブッカー・T・ワシントンブッカー・T・ワシントンの秘書を務める。

Robert E. Park (1864-1944) タスキギーでの人種問題会議を準備。トマスと出会う。

http://www.lib.uchicago.edu/projects/centcat/centcats/fac/facch17_01.html

1913年からシカゴで非常勤講師を勤める。1923年に正教授となる。

バージェスとコンビを組んで、精力的に学生を指導。

シカゴ学派都市社会学の指導者。

（2）ソサエティとしての都市

パークの論文「都市——都市環境における人間行動研究のための若干の提案」は、ソサエティの水準に踏み込んだ都市の記述。

「都市とは、たんなる個々人の集まりでもなければ、社会的施設——街路、建物、電灯、軌道、電話など——の集まりでもなく、何かそれ以上のものである。また、たんなる制度や行政機関——法廷、病院、学校、警察、各種の行政サービスなど——の集まりでもなく、何かそれ以上のものである。むしろ都市は、一種の心の状態、すなわち伝統や慣習の集合体であり、もともとこれらの慣習のなかに息づいており、その伝統とともに受け継がれている組織された態度や感情の集合体である」（Park 1925, p.1）。

パークは20世紀初頭の都市を移民社会の縮図として描き出す。

混沌とした都市のなかから、いかなる社会秩序が発見できるのか。これがパークの基本的な問題関心であった。

パークの混沌とした記述のなかに、都市社会学の基本問題が出そろっている。

（3）「都市」解読のための2つの補助線

都市社会学が記述・説明しようとしているのは、都市における社会生活。

これはしばしば包括的に「都市コミュニティ」と呼ばれてきたもの。

●ウェルマンの「コミュニティ問題」(Wellman 1979)

産業的・官僚制的分業が、第一次的な絆(親密な絆)の組織と内容にどのような影響をおよぼしたのか?

①コミュニティ喪失論

産業的・官僚制的分業によってコミュニティは衰退した。

②コミュニティ存続論

産業的・官僚制的分業の欠陥を補うものとしてコミュニティが存続。

③コミュニティ解放論

産業化・官僚制的分業によって、コミュニティは分散的なネットワークに変わった。

●フィッシャーのいう「アーバニズム(都市生活)理論」(Fischer 1984)

都市生活の特徴を説明するものは何か?

①生態学的決定理論

人口の集中という生態学的事実がコミュニティの衰退を引き起こす。

②社会構成理論

都市の社会構成(住民の社会的属性)が、都市生活の特徴を説明する(都市と村落の違いは、人口構成の違いによって説明できる)。都市そのものは、独自の効果をもたない。

③下位文化理論

人口構成だけでなく、人口が集中しているという事実も、都市生活の特徴を生み出す。人口の集中は、新しい下位文化を形成し、都市の文化的多様性を増大させる。

この2つの問題は、都市社会学の基本問題のひとつであり、本講義の全体を貫く問題でもある。パークは、これらすべてについて語っている。

(4)都市と近隣社会

「時がたつにつれて、都市の各地区は、その住民の何らかの性格や資質を帯びるようになる。また、都市の各部分は、必然的に、その住民のもつ特有の感情によって彩られる。その結果、最初、たんなる地理的表現にすぎなかったものが、ひとつの近隣社会、すなわち、それみずからの感情、伝統および歴史をもつ一地域へと変化する」(p.6)。

→都市におけるコミュニティの形成・存続。住民構成とコミュニティ特性との関連。

「都市の組織、およびそれが負わせる都市環境と規律上の性格は、結局は、人口の規模、その集中、ならびに都市地域内における人口分布によって決定される」(p.6)。

→社会構成理論を含みつつも、生態学的決定論への傾斜。

「都市的環境のもとでは、近隣社会は、より単純で原始的な形態の社会のなかで保持してきた多くの意義を喪失する傾向にある。交通・通信手段の発達、個人が同時にいくつかの異なる社会に注意を配り、また同時に異なる社会に住むことができるようにするので、

近隣社会の永続性や親密性を破壊する傾向にある。しかし、他方では、いわゆるゲッターや人口隔離地域といった移民ないし民族的居留地の孤立は保持され、民族的偏見のある地域では、地域集団や近隣集団のもつ親密性や連帯性は強化される傾向にある」(p.9)。
→喪失論と存続論の併記。「強化」されるのはむしろ下位文化理論の主張ともいえる。

(5) 分業の発達と第二次的関係

●近代都市における分業の発達に注目。

「古代都市は、基本的には城砦、すなわち戦時の避難所であった。これに対し、近代都市は基本的には交易の便を図るところであり、その存続もそれがよってたつ市場に負っていた。産業上の競争と分業は、人間の潜在能力を発展させるうえに最も力があつたものと思われるが、しかしこの競争と分業も、市場、貨幣、その他交換促進のための諸装置の存在という条件のもとではじめて可能だったのである」(p.12)。

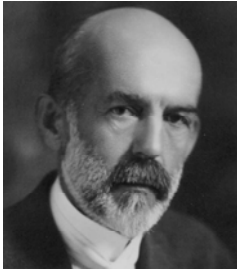
●貨幣経済の浸透→分業の発達→職業の専門分化・経済的な相互依存性の増大。

感情にもとづく連帯から利害にもとづく連帯へ。社会の不安定性の増大。

●交通通信手段の発達。

「都市の交通・通信の近代的手段——電車・自動車・電話・ラジオなど——は、近年、近代都市の社会組織や産業組織を知らず知らずのうちに急速に変化させた」。

「このような変化の一般的な特性は、都市の成長とともに、コミュニティにおける個人の結合が、直接的・対面的・『第一次的』関係から、間接的『第二次的』関係におきかえられたという事実に示されている」(p.23)。



「第一次集団」(クーリー)：対面的、親密、協同的な集団で、個人の人格形成にとって第一次的に重要な集団。

●家族・教会・近隣社会などの第一次的集団の衰退→犯罪・非行の増加→社会統制機関(警察や裁判所、マスメディア)の発達

Charles H. Cooley (1864-1929)

<http://www.asanet.org/page.wv?name=Charles+H.+Cooley§ion=Presidents>

全体として、コミュニティ喪失論。

しかし、生態学的決定論というわけではない。貨幣経済、交通通信手段、分業などの要因。

●都市政治における第一次的関係(マシン政治)

「タウンミーティングにその起源をもつ統治形態は、第一次的関係にもとづく小さなコミュニティの要求にはよく適していたが、人口300万から400万の都市の流動的で異質な住民の統治にはもはや適していない」(p.33)。

2つのタイプの政治組織：政治マシンと市民組織

「第1の政治マシンは、概して地域的・個人的な、いわば第一次的な関係にもとづいてい

る。第2の良き政府のための組織は公衆に訴えるが、この公衆はわれわれが通常この表現で理解しているように、第二次的関係にもとづく集団である」(p.35)。

(6) 気質と社会環境

●都市における交通・通信手段の発達は、個人の移動性を増大させ、多様なパーソナリティを生み出す。

「このような多くの違ったタイプの人びとが、都市に、良かれ悪しかれ、彼らの資質や才能の果実を結ばせるような環境をいまや見いだしている」(p.42)。

●趣味や気質にもとづく「凝離」。「道德地域」としての都市下位文化の生成。

「都市生活が任意につくった組織のなかで、住民は、たんに利害のためだけでなく、その住民の趣味や気質によって、それ自身を凝離するようになる。趣味や気質による人口の分布状態は、職業的利害や経済的利害によってもたらされたそれとはまったく異なっているようである。

このように都市人口を分布ないし凝離させる傾向にある影響のもとでは、いずれの近隣社会も「道德地域」の性格を帯びるようになるであろう。たとえば、大部分の都市に見られる悪徳地帯はこのような例である。道德地域は、かならずしも居住の場所である必要はない。それはたんなる会合の場所であってもよいし、また盛り場であってもよい」(p.43)。

道德地域は「異なる道德的規範がいきわたっている地域を表すもの」(p.45)

=都市下位文化の空間的表現。

●社会的感化（非通念的な社会化）

「社会的感化は、さまざまな[逸脱]タイプにそれぞれ共通する気質の違いを刺激する傾向があり、また彼らを取りまくノーマル・タイプに彼らを併合させようとする性質を抑制する傾向がある。また、同類者の結合は、たんに刺激を与えるというだけでなく、彼らが共通にもっている諸特性に対して選択性の乏しい社会では見いだせないような道德的支持を与える」(p.45)。

「都市は、人間的性質と社会諸過程が最も都合よく有益に研究できる社会的実験室もしくは臨床講義室である」(p.46)。

ワース理論では無視されていた論点。フィッシャーの下位文化理論によって再評価された。